

作業療法 第45巻 第4号 (通巻253号) 目次

◆巻頭言

[臨床と研究を繋ぐ「共育」の視点](#)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 奈良 篤史 411

◆学術部報告

[学術誌『作業療法』第44巻の表彰論文](#)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 学術誌編集委員会 413

◆総説

[精神障害をもつ人の作業バランスの評価対象の分析と評価や介入に向けた提案](#)

—文献研究—・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 東 ひなた・他 416

◆原著論文

[病院に従事するリハビリテーション職員への信念対立解明アプローチを基盤とした](#)

[多職種連携ワークショップの効果の検証](#)

—混合研究法を用いたパイロット研究—・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 宇都宮 裕人・他 425

[橈骨遠位端骨折患者の手の使用満足度と手関節機能および生活における手の実用度の関連](#)

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 相良 慶介・他 435

[脳卒中の後遺症を残すクライアントの障害の認識と作業参加の関連性における質的解明](#)

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 田原 涼馬・他 444

[通いの場に参加する地域在住高齢者の作業参加に関する横断研究](#)

—健常者とMCI者の比較—・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 青柳 翔太・他 454

[日本における作業療法に関するYouTube動画の質とエンゲージメントの横断的分析](#)

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 村仲 隼一郎・他 462

[地域在住の認知機能が低下している高齢者の能力に適した活動の探索](#)

—Pool活動レベルを使用して—・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 原 悠平・他 472

[体圧分布および心拍変動解析からみた重症心身障害者におけるベッド頭部挙上姿勢の特徴](#)

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 佐藤 匠・他 482

◆実践報告

[神経移行術 \(Oberlin 変法\) を用いた肘関節屈曲再建後に機能訓練と動作練習の](#)

[段階的な実施により職業動作の再獲得につながった事例](#)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 堀本 拓究・他 491

[認知機能低下を有する整形外科疾患患者に関する回復期リハビリテーション病棟退院時](#)

[申し送り票の作成](#)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 上田 奈央・他 499

[注意障害を有する脳卒中患者の自動車運転再開支援にVRを活用した一例](#)・・・・・・・・・・・・ 伊藤 正敏・他 507

[作業療法士による旅行支援後に日常生活活動が改善した2症例](#)・・・・・・・・・・・・ 戸高 那行・他 514

[授業内容に基づいた地域連携教育評価尺度の開発と2年間の比較による効果の検討](#)

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 赤堀 将孝・他 522

[認知症や精神症状を併発した生活期パーキンソン病者の重度すくみ足に](#)

[家族参加型運動観察療法が及ぼす影響](#)

—単一事例研究法のABABデザインを用いた介入検証—・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 舞田 大輔・他 531

[クモ膜下出血後の認知機能低下が最重度を呈した対象者にライフヒストリーカルテから](#)

[意味のある活動を用いた実践報告](#)

—食事の自己摂取に着目したシングルケースデザインによる検討—・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 林 悠大・他 539

[精神科病院に入院する統合失調症のクライアントに対するCognitive Orientation to](#)

[daily Occupational Performance \(CO-OP\) の有用性 ―事例報告―](#) 今元 佑輔・他 546

[脳卒中後の復職支援における両立支援制度の実践的活用](#)

[―復職時期の異なる2 事例からの知見―](#) 中島 裕也・他 554

◆短報

[作業療法士の職業的アイデンティティと精神的健康およびストレス関連指標の関連性](#)

. 湯口 泰輝・他 563

編集後記

▶師の命日を来週に控えて、本号に巻頭言から目を通した。文中の「弟子によって継承され否定されそしてより高いものに」のくだりは、わが師、齢八十にして「心残り」と話された内容に一致する。奈良氏の提言と同じく、「患者をよく見ればわかってくる。患者の中に答えはある。その結果を公開するのが我々の仕事である」と叩きこまれた。本号に掲載された論文の3分の2は、「臨床」と「研究」の作業療法士が名を連ねている。これは良い傾向だろう。私も「共育的視点」を意識して本誌の編集に携わっていこう。

(K・O)

▶本号には、総説1編、原著論文7編、実践報告9編、短報1編を掲載した。研究や実践を論文として結実させた著者の皆様のご尽力に深く敬意を表したい。また、本誌の学術的な質を支えてくださっている査読者の皆様にも、改めて心より感謝申し上げる。編集委員という立場は、著者と査読者との協働によって、一つの論文が磨き上げられていく過程を間近で見届けることのできる特等席であると感じている。その一方で、掲載の可否を判断する際にマウスをクリックする指先は、いつも重責と緊張で硬くなる。これはいつまで経っても慣れない作業である。掲載（公開）は一つの到達点であると同時に、新たな出発点でもある。本号に収められた知見や実践を契機として、読者も加わり、新たな着想や出会いが生まれ、対話や議論がさらに深まっていくことを期待したい。

(N・S)